

新・歴史の見える風景

福井商業の移転と野球場

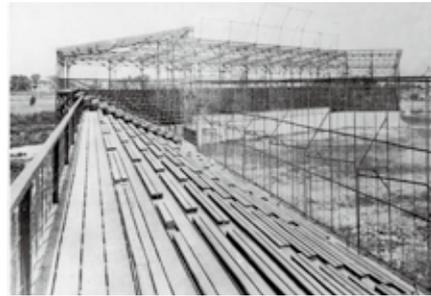
北陸一と称された野球場を併設し運動場を整備



野球部員と工事関係者の建設中の記念写真



学校の野球場とは思えない鉄傘を有する内野スタンド



戦前の福井商業高校（昭和10年頃）



福井商工会議所作成の永平寺大遠忌優待事業の案内

県立福井商業高等学校の前身となる福井市立商業学校の開設は、明治41年6月である。福井の商業教育は、明治10年代に取り組みが始り、この時期まで紆余曲折を強いられた。

開校時の場所は、神明神社西の元福井女子高等小学校跡で、校舎はそのまま活用された。このため校舎の老朽化や、生徒数に比して校舎も狭く、明治42年の皇太子（後の大正天皇）殿下の行啓記念事業の一環で増改築が行われた。しかし、市中心部に立地し、敷地が狭隘で更なる拡張は望めず、生徒数増大に対応できないため、大正後期から移転拡張が度々検討課題となった。その結果、

昭和2年11月に高等工業学校（現福井大学）付近で三国芦原鉄道（現えちぜん鉄道）の停留所予定地に近い三ツ橋地籍（現乾徳4丁目）へ移転が決まり、翌年4月着工となった。

新築移転にあたっては、従来十分な運動場が確保できていなかった実情に鑑み、運動部OBや後援者を中心に北陸一の野球場設置が構想され、校舎建築とあわせて野球場を兼ねたグラウンド整備が進められた。工費1万2千円、施工は建築組合の副組合長を務めていた市内の橋本工務店が担当した。この野球場は、当時甲子園などに設置が限られていた鉄傘や、2千人収容の鉄骨製スタンド

を有する本格的なもので、北陸一と称された。昭和5年4月25日に完成し、直ちに供用開始となった。

この年は、全国から数十万人来県する永平寺大遠忌事業が4月から行われるため、福井商工会議所では来県者向けの記念（歓待）事業を計画していた。特産品の展示即売会だけでなく文化、芸術、スポーツの各分野で実施され、スポーツでは、各種陸上競技に加えて、この球場を使用した記念野球大会が実施された。明星商、舞鶴中、膳所中、岐阜商、浪華商など中等学校の強豪チームや、早稲田大学、県内から敦賀商、福井高工（現福井大学）、社会人野球が

ら東京、名古屋、長野、大阪の各鉄道局などによる対戦試合が生まれ、多くの観客が訪れ、市内バスも駅前から球場への路線が開設された。

この球場の完成により、その後の全国中学校野球大会（現在の高校野球）の予選や県下小学校の野球大会などもここで開催されることとなり、本県球界の発展に貢献した。しかし、戦局悪化に伴う金属回収令で、昭和18年5月に鉄傘やスタンド、バックネットは生徒たちの作業により取り壊され、金属部分は国に供出された。竣工からわずか13年で、北陸一を誇った福井商業球場は姿を消した。

（文 奥山秀範）